

り組んでいきたいと考えています。

シイタケ生産者支援

問 しいたけ生産者に対して更なる支援策を検討していますか。

答 今回の価格低迷については、生産者の栽培意欲を著しく減退させ、原木乾シイタケの産地としての存続が危ぶまれる危機的な状況であり、加えて生産者の高齢化は着実に進行しており、過疎化や里山の崩壊にもつながる極めて憂慮すべき事態であると認識しています。大洲市内では、原木乾シイタケのほだ木となるクヌギ林が約4,000ヘクタールあり、貴重な森林資源として今後も活用していかなければなりません。原木乾シイタケ栽培は、このクヌギを一定年数で伐採し、萌芽更新により成長したクヌギを繰り返し活用する資源循環型の典型的な産業です。

また、このことは適度な森林整備につながっており、広葉樹林としての公益的機能の維持・向上が図られて

いると言えます。このようなことから、これからクヌギ林の活用について、ほだ木としての活用に加え、今注目をされ始めているまきや木炭としての活用や新たな分野としては、木質バイオマスとしてのエネルギーの活用も期待されています。

原木乾シイタケの生産振興とシイタケ産地の維持持続はもとより、クヌギ林の活用の新たな可能性についても検討し、森林・林業の振興に取り組んでいきたいと考えています。

再生可能エネルギーへの取り組み

問 バイオマスエネルギー事業の進捗状況はどうなっていますか。

答 当市のバイオマスエネルギー事業については、昨年3月にバイオマス活用推進計画を策定しています。計画策定に当たっては、廃棄物系バイオマス、未利用系バイオマス、資源作物、3区分17種類のバイオマスについて年間発生量、利用率及び活用方法等の検討を行ってきました。計画では、

当市の地域特性を生かした木質資源のほか、さまざまなバイオマス資源を有効活用したエネルギー供給事業を展開することにより、化石燃料消費量の削減や環境保全はもとより、雇用創出や関連産業への波及効果を目指しています。

また、昨年9月には大洲市バイオマス活用推進委員会を設置し、バイオマス活用推進計画の内容を踏まえ、木質バイオマス資源の活用、食品廃棄物等の活用、廃食用油のバイオディーゼル燃料化等について、これまで重点的に検討を行ってまいりました。

バイオマスを活用した事業実施については、膨大な費用を有することもあり、事業の収益性や継続性なども考慮し検討を行っている現状です。

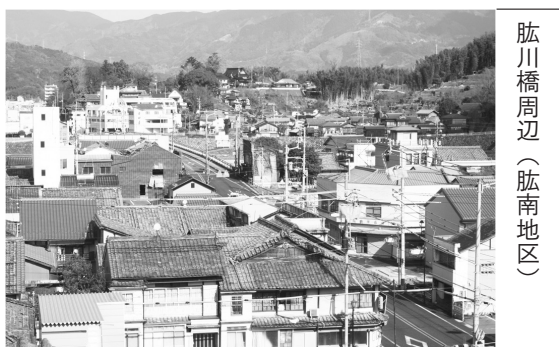
今後においても、バイオマスエネルギーを活用することにより雇用の創出、地域産業の活性化等につながるよう、引き続き関係機関と連携を図りながら、事業実施に向け十分に検討していききたいと考えています。

肱南地区の街づくり

問 観光の顔と言える肱川橋通りの景観やまちづくりをどのように考えていますか。

答 大洲交差点改良事業の実施に伴う肱川橋通りのまちづくりについては、地権者や借家人の皆さんを対象として、本年4月より無料相談窓口を設け、移転先や建物の設計など、不安や悩みの相談に応じています。現在までに窓口での相談が11件、うち専門家への相談が4件あり、相談日以外にも14件対応しています。皆さんそれぞれに大切な財産として強い思い入れを持っているので、まずは生活再建を第一に、それぞれの意向に沿った土地活用に向け、情報の収集と提供に努めているところです。なお、今後の有効な土地活用法については、今後も地権者の皆様とともに研究していかねければならない課題であると考えています。

また、将来的に肱川橋通りを活気にあふれた町並みとして再生していくために



肱川橋周辺（肱南地区）

は、肱南地域の歴史と文化を生かしたエリア戦略を策定し、実効性のある事業計画を積み上げていく必要があります。今後は、地域住民の皆様で設置をされている肱川橋周辺まちづくり推進協議会から御提言をいただきました肱川橋周辺まちづくり基本計画なども踏まえながら、景観や歴史的資源にも配慮したまちづくりに向けて実施計画を練り上げ、まちの活性化に努めていきたいと考えています。

伊方原発と原子力防災訓練

問 いろいろな問題を抱えている伊方原発を市長